

(3) - 2 関西国際空港の存在・運用に係る環境監視計画の変遷

監視項目	測定・調査項目	調査範囲	調査点	2期共用開始後(H19.8)～		現行(H30.3末時点)	
				調査頻度	実施期間	調査頻度	備考
航空機騒音		11地点(常時) 10数点(定期)	常時観測	将来にわたり実施	常時観測 年1回程度	将来にわたり実施	将来にわたり実施
騒音	飛行経路・高度	大阪湾沿岸地域及び飛行経路周辺地域	数箇所 (当面年1～4回)	年1回程度 運用開始3年後まで	年1回程度 (H28.9変更)	平成29年度から当面の間	
低周波音	航空機の低周波音	大阪湾沿岸地域	数地点	常時測定	運用最大時の3年後まで	H24年度末で終了 (H25.8変更)	運用最大時の3年後まで
大気質 大気 気象	窒素酸化物(ニ酸化窒素・一酸化窒素)、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、風向・風速 二酸化硫黄 窒素酸化物(ニ酸化窒素・一酸化窒素)、浮遊粒子状物質、風向・風速	空港島対岸部 1地点 2地点	1地点 2地点	常時測定	運用最大時の3年後まで	H22.7末で終了 (H22.3変更)	運用最大時の3年後まで
水質	透明度 水温、塩分、pH、DO、COD、T-N、T-P、クロロフルア、SS	空港島周辺海域 内部水面海域	4点 3点	年4回(四季)	年4回(四季)	H22.5調査で終了 (H22.3変更)	平成31年7月まで(H28.9変更) 北側連絡誘導路等の施設整備の実施が確定後、着工前に速やかに内部水面(N1、N2)において年4回(四季)で再開
底質	泥温、強熱減量、粒度組成、pH、COD、硫化物、T-N、T-P	空港島周辺海域 内部水面海域	4点 3点	年2回 (夏季・冬季)	年2回 (夏季・冬季)	H22.5調査で終了 (H22.3変更)	平成31年7月まで(H28.9変更) 北側連絡誘導路等の施設整備の実施が確定後、着工前に速やかに内部水面(N1、N2)において年4回(四季)で再開
	植物プランクトン 動物プランクトン	内部水面海域	2点	運用開始3年後まで	運用開始3年後まで	H22.5調査で休止 (H22.3変更)	北側連絡誘導路等の施設整備の実施が確定後、着工前に速やかに内部水面(N1、N2)において年4回(四季)で再開
海域生物	底生生物	空港島周辺海域 内部水面海域	4点 3点	年4回(四季)	年4回(四季)	H22.5調査で終了 (H22.3変更)	平成31年7月まで(H28.9変更) 北側連絡誘導路等の施設整備の実施が確定後、着工前に速やかに内部水面(N1、N2)において年4回(四季)で再開
	漁業生物	空港島周辺海域	4点	年3回 (春季・夏季・秋季)	年3回 (春季・夏季・秋季)	H22.5調査で終了 (H22.3変更)	平成31年7月まで(H28.9変更) 北側連絡誘導路等の施設整備の実施が確定後、着工前に速やかに内部水面(N1、N2)において年4回(四季)で再開
陸生動物 (鳥類)	鳥類の飛来・生息 タカ類の渡り	1期及び2期空港島内 空港島周辺海域 タカ類の渡りのルート	定点及び調査ライン 調査ライン タカ類の渡り	3年ごとに月1回 3年ごとに年4回 3年ごとに年1回	3年ごとに月1回 3年ごとに年4回 3年ごとに年1回	H19年度調査で休止 (H20.8変更)	航空機年間離着陸回数が大幅に増加した段階(20万回程度など)で再開 航空機年間離着陸回数が大幅に増加(20万回程度など)、または、2期事業の進行により鳥類の生息環境に一定の変化が認められる段階で再開 航空機年間離着陸回数が大幅に増加(20万回程度など)、または、タカの渡りに関する諸情報等により、調査が必要と判断された段階で再開